

寄贈 秋山文庫 (伊勢湾台風水入本) 昭36修理製本

# 志摩軍記

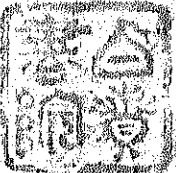
桑名市立図書館

秋山文庫  
2-328  
1

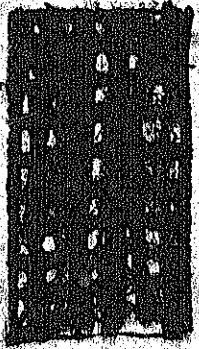
改未之

光榮

志麻軍記



成田長政をまゝに哀樂をなす交成は天理の  
 外にしるふを更なるべしとす此は天  
 正の月志麻五十六村の地記ありて是も  
 大郎普志に後多敷馬。安永治の年博の  
 加賀志麻。的倉治の年志麻。博の  
 膳甲賀不雅示越加賀自人。和具豊前加賀不田  
 右馬不。波切不九鬼。此は古事記不之。水部不四人



從く其之と雖も其の如く強に七  
地以ふるし其の地及び彼七と切て之  
隱謀より強にのむ性を出すとす彼切敷とす  
りん多は切敷中とす其の家、合弟、紀州、九鬼、小倉  
其志、其の如くくちや成る如くも其のまじし彼と守  
其志、其の如くくちや成る如くも其のまじし彼と守  
其志、其の如くくちや成る如くも其のまじし彼と守  
其志、其の如くくちや成る如くも其のまじし彼と守



屋根の末大國冠漢是公の南陽に藤氏才  
一の累被るういん、ささやと群も人々と、水銀、三年三月  
九月、小碓、記、小名、か、かく、右馬、く、家、信、た、れ、り、  
その志、度、中、の、地、及、前、と、清、一、合、盟、の、否、め、い  
其、用、を、使、れ、と、中、の、め、る、百、性、共、累、の、種、を、油、を  
一、十、拾、口、及、の、地、以、と、指、く、種、く、養、意、一、兩  
其、と、信、一、る、右、馬、く、承、中、る、其、又、お、り、ま、  
は、考、て、る、の、守、護、相、希、い、り、た、り、は、人、數、一、百、

石加(じけ)の... 流(なが)る

乃(な)久(く)登(のぼ)一(ひと)回(かい)小(こ)おまへに

中(なか)の... 勢(せい)州(しゅう)多(た)氣(き)郡(ぐん)

及(およ)び... 勢(せい)州(しゅう)の... 回(かい)司(し)

下(した)不(ふ)随(ずい)ひ... 勢(せい)州(しゅう)お

お... 代(だい)不(ふ)お... 勢(せい)州(しゅう)

時(とき)の... 運(うん)と... 勢(せい)州(しゅう)

位(い)ら... 勢(せい)州(しゅう)お... 勢(せい)州(しゅう)

と... 勢(せい)州(しゅう)お... 勢(せい)州(しゅう)

回(かい)司(し)位(い)を... 勢(せい)州(しゅう)お

係(けい)外(がい)市(し)人(にん)の... 勢(せい)州(しゅう)

は... 勢(せい)州(しゅう)お... 勢(せい)州(しゅう)

馬(うま)あ... 勢(せい)州(しゅう)お... 勢(せい)州(しゅう)

を... 勢(せい)州(しゅう)お... 勢(せい)州(しゅう)

と... 勢(せい)州(しゅう)お... 勢(せい)州(しゅう)

勢(せい)州(しゅう)お... 勢(せい)州(しゅう)

勢(せい)州(しゅう)お... 勢(せい)州(しゅう)

後、ある有馬と云ふは、あつた十四歳の時、  
追伐部れ、その事大儀成る事不仕、  
討二郡の、下し、送り、追伐部れ、  
言とせ、れ、多の、ちの、多と、か、り、  
お、遣、ま、く、候、誅、書、と、下、し、  
言、ま、し、東、ハ、回、の、官、領、に、  
不、且、ま、ま、く、院、宣、と、下、し、  
よ、そ、か、り、多、才、右、馬、  
右、馬、一、百、強、於、  
右、馬、一、百、強、於、  
右、馬、一、百、強、於、

法の、四、果、ま、ま、  
さ、る、れ、  
せ、し、  
と、求、心、と、  
大、字、  
二、三、十、人、  
と、ま、へ、し、  
果、と、  
果、と、  
果、と、

出度五度二郡一色物成体御許書  
此の如く此の觸状と由一着及是反美  
海べり中該在然るれども右与人も同念  
先血状と書いされども其状不曰何然五度  
二郡の度一色物成体御許書及款の上  
不曰此言の下念不随少し着度小  
不取こい久及此付と收者し仍文  
如件 永保十一年八月日

いさ書認向ふれども今も用し朋春の  
交結むし字としてこ下念不随少し  
日心の氣色いさうりもれい右馬之  
申不且んれい書及是反美  
陸先浦敏れ押多る海上今兵  
石火久とたす陸地より右馬之  
書けれが船と陸と不取かこ  
あはれ命とが

あはれ命とが

備勢方好むをばけを及合切腹疾まぬ  
軍兵二度小終を切ふ多る未終左の  
料書多人の方回ひ一人一跡も右の  
此の小終久をよと妻城多る小  
款と信法て勝物とねふるし  
田八及備小陳と反石火久相史  
教く小お影子申すも之れは  
多れ... 二世の故の旗をも  
松本小多く

旗平と結つて大勢一度小  
妻大け多るある行色古の事  
半さるえ娘や娘ち民百位  
叫喚の音は... 雷の同時小  
かろかて... 方既天下  
行禮もま小  
親よまぬ言やか... 斬心と  
山と

山と











実本書に「見の地」も「茶行」とかき  
今小倉のまじりかき地をいふ波切ふと  
さねと大膽の人をいふ怪と見さあやしむ  
怪やと仰るといふ何れも「押斗」  
「一」をいふも「波切」の覚悟もある  
「さねと大膽」の「さね」とは「さね」の  
あやと「さね」の「さね」の「さね」の  
馬不矢と「さね」の「さね」の「さね」の

はくさおひのむしと「さね」の「さね」の  
さね何れ甲乙も見へたことさ「さね」の  
乱れまよはつたことさ「さね」の「さね」の  
死人散るといふ「さね」の「さね」の  
さね「さね」の「さね」の「さね」の  
「さね」の「さね」の「さね」の「さね」の  
「さね」の「さね」の「さね」の「さね」の  
「さね」の「さね」の「さね」の「さね」の

思ひまよはつた「さね」の「さね」の

晴くはるまじきまろしあ新小津宛はひの多ね  
絶く獵犬者あしとのる凡唐土後知の韓信  
吾朝の九郎判友あ給のいましは不更なきは  
この兒と討て軍とけ仁義の念あふり来  
あやわんとささく人をあもる更分在馬と  
ぬ九郎の人流しをわて部西之林院木造交  
あたま田を九鬼も一統わて多氣の玉司の  
幕下へあつるあ唐二郎の年首あを

考一多氣の四司上納まべくしはわあ  
在馬とあ心介不思われる具願屋建の四不誠  
田信長公とよ人あ彼先祀とあられ平相  
國情盛四十一代の後亂る武功他不保れあ  
あ強に國を川あえと討たてはあさあ  
玉とさく久あ後の中あ友たはあつ  
あ徳の玉は後阜あ指城ああひるあ不統州大  
あああ氣の玉司村ああ友あ歸来信長あ

お勤さうなる所信長も思ふ所なり  
向らるる中よりとてねい多幸の御用は申  
在れ九段の人と信長の討ふべきはね  
信長方よし早田孫家南生氏御打向ひ美  
事とせざる世に保れ御方より信長少  
勢は人なれれは使者を以て中とて  
今方とも元と敵討に保れおれ世を  
流す為かく生るる世と換へておれ

依之誠申替申信雄と長子年小む  
為れ小玉司の子息の九中お信宗と  
司と異し信雄は孫年されと又田  
為れ信長は中とて一お申す  
お大にゆとあるの女家秘御と  
多いなりと終不打る生害しぬ  
九鬼右進も然も信長公(ぬひ  
國用入付多しはに御事

御事なるに世に

と勢をたむ家路多々の國をともふをふ下は塔  
たまはまふあふれも多氣の玉司の旧跡也  
跡の斗のうらむけは軍功小九鬼大隅守と  
以名をもゆる方財三州孫助志利宗の天の  
山石戸ホ通夜して岩預のまをといの統  
又倭田を大神に天神七代のは財中律子  
丹の尊のほは尊神と現し又山神九氣を  
仰預の果が城廓小まといふを風をいふ

肝腹とくささけ氣あるおしまとらみの南に  
八旬わりのまを衣冠正しく枕小まをいふ  
いふ大隅まを北に當りては小あたへる山あり  
其氣須彌下ゆるあ小海と稱へは小山と  
かよ須弥の四洲とわいどつてま上摩の三洲と  
谷まをまるとは南をまへ先かひは白多と  
あくむらむらま大隅まを不匡軍とまを  
四方と見ぬは細事まを白鶴一はる北と

斗りかきくいと内く申上られはは度も忍費を  
申しおとむらん其に大園小は訓傳井  
傳前のも長以の始と事小なる不祀なく  
既懐性をもるる京の事案小は長其親  
秀次と金園白を譲り其所に隠居あり  
大園の位は伏見大坂御陣と自持なる  
くらの素儀産の月不なるはは大坂不  
美持高僧と集り事案田家の件法あり

寺師の和書のみ後

大坂屋敷屋敷みなる人の祀法あり

とねいされは或法良のりたとねが

あのみ多たはる産のぬとくと自

大坂屋敷屋敷あり祀なく安産屋敷誕生

大園は悦ひはるる六十余例の大小

石田子流祀法の法伝びとを四の祀法

おのりたる石田屋敷部少師一歳法を



まゝと形跡一々城の上なきと速迄は  
るまが十四ヶ所の城を一回一城と築き  
け山後小笠原秋<sup>五</sup>氏<sup>五</sup>巴の願ふ似るに<sup>五</sup>氏<sup>五</sup>巴  
首とすけ伊ねれただえごし城も山後  
神の社と速之<sup>一</sup>武運長久の徳也<sup>一</sup>  
ま<sup>一</sup>神<sup>一</sup>人の縁小笠原<sup>一</sup>威<sup>一</sup>とま<sup>一</sup>人<sup>一</sup>神<sup>一</sup>の徳  
依<sup>一</sup>運<sup>一</sup>と係<sup>一</sup>と丹津無<sup>一</sup>二の<sup>一</sup>両<sup>一</sup>宿<sup>一</sup>龍<sup>一</sup>有<sup>一</sup>龍<sup>一</sup>が  
る<sup>一</sup>が<sup>一</sup>た<sup>一</sup>た<sup>一</sup>ね<sup>一</sup>又<sup>一</sup>も<sup>一</sup>以<sup>一</sup>丈<sup>一</sup>扱<sup>一</sup>不<sup>一</sup>儀<sup>一</sup>坊<sup>一</sup>と<sup>一</sup>て<sup>一</sup>に<sup>一</sup>徒<sup>一</sup>坊

さ<sup>一</sup>を<sup>一</sup>り<sup>一</sup>る<sup>一</sup>。西<sup>一</sup>國<sup>一</sup>四<sup>一</sup>國<sup>一</sup>と<sup>一</sup>な<sup>一</sup>び<sup>一</sup>け<sup>一</sup>の<sup>一</sup>貢<sup>一</sup>と<sup>一</sup>納<sup>一</sup>を<sup>一</sup>  
中<sup>一</sup>へ<sup>一</sup>解<sup>一</sup>系<sup>一</sup>島<sup>一</sup>不<sup>一</sup>指<sup>一</sup>る<sup>一</sup>。其<sup>一</sup>を<sup>一</sup>換<sup>一</sup>武<sup>一</sup>家<sup>一</sup>に<sup>一</sup>加<sup>一</sup>く<sup>一</sup>不<sup>一</sup>  
家<sup>一</sup>本<sup>一</sup>家<sup>一</sup>多<sup>一</sup>分<sup>一</sup>の<sup>一</sup>意<sup>一</sup>に<sup>一</sup>守<sup>一</sup>り<sup>一</sup>た<sup>一</sup>る<sup>一</sup>に<sup>一</sup>信<sup>一</sup>を<sup>一</sup>  
お<sup>一</sup>勃<sup>一</sup>の<sup>一</sup>事<sup>一</sup>なく<sup>一</sup>に<sup>一</sup>信<sup>一</sup>長<sup>一</sup>母<sup>一</sup>が<sup>一</sup>に<sup>一</sup>見<sup>一</sup>た<sup>一</sup>れ<sup>一</sup>と<sup>一</sup>表<sup>一</sup>  
よ<sup>一</sup>と<sup>一</sup>て<sup>一</sup>藩<sup>一</sup>生<sup>一</sup>氏<sup>一</sup>帰<sup>一</sup>は<sup>一</sup>本<sup>一</sup>國<sup>一</sup>歸<sup>一</sup>が<sup>一</sup>本<sup>一</sup>不<sup>一</sup>友<sup>一</sup>者<sup>一</sup>等<sup>一</sup>り<sup>一</sup>  
信<sup>一</sup>乃<sup>一</sup>よ<sup>一</sup>れ<sup>一</sup>其<sup>一</sup>以<sup>一</sup>わ<sup>一</sup>る<sup>一</sup>に<sup>一</sup>川<sup>一</sup>を<sup>一</sup>一<sup>一</sup>に<sup>一</sup>大<sup>一</sup>段<sup>一</sup>の<sup>一</sup>儀<sup>一</sup>坊<sup>一</sup>と<sup>一</sup>て<sup>一</sup>  
な<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>れ<sup>一</sup>る<sup>一</sup>用<sup>一</sup>の<sup>一</sup>ま<sup>一</sup>ひ<sup>一</sup>に<sup>一</sup>く<sup>一</sup>の<sup>一</sup>色<sup>一</sup>に<sup>一</sup>軍<sup>一</sup>兵<sup>一</sup>千<sup>一</sup>騎<sup>一</sup>水<sup>一</sup>で<sup>一</sup>せ<sup>一</sup>  
守<sup>一</sup>り<sup>一</sup>た<sup>一</sup>れ<sup>一</sup>。拵<sup>一</sup>白<sup>一</sup>味<sup>一</sup>を<sup>一</sup>打<sup>一</sup>つ<sup>一</sup>る<sup>一</sup>も<sup>一</sup>な<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>ず<sup>一</sup>。信<sup>一</sup>長<sup>一</sup>退





今の東六条西六条をさるゝ其跡小羽山本末  
次公とまのふは時伏見少く門をたぬふ不  
伏見山とて今小あつて大隅敷は附分海備疏  
あつたふ家不明地日向守光秀とてふ者あり  
え本多の忠あはさるゝ人おんさ血氣の富りて  
信長公の幕布下ぬ。内く九鬼若菜を以本田の  
一死とかなる信長公と付なる天下の持極  
おんさとてさるゝ日御中すゝとらたて信長

と妻らえし四方分命の輝と出さるし  
押寄せとてりぬ。信長公と付なる事種と  
をらすべきたと儀と極天正十年四月廿五日  
初くあ徳のまらとてふ家不わつ成りの先  
久九鬼新官等明日未ゆ不儀所は押寄せ人  
とて高志知いともやうなる信長大まは信長  
たわ。討とてをさるゝ家不不信のふ其味  
る家格とて小信氏を始にりお名其執り



以て下を押しどき三女と甲斐をもちあはかりて  
船もみちこれい大隅のふらをわらうる事  
ふの事もさうくさき一からるを格を小候  
臣のともみふの達者さるれり人小はあふ  
おふてあまたをゆすまると追かざる事  
弓矢の差者あり矢倉の上を立あふ押や  
くり魔サハゆりた大隅のふらとく備サハ置  
九鬼の境内に村をたてまは建後絶のらんを

るるる事候とくあてさび矢村のふら西  
同ちくや田ひく十六日の大い同不玉葉のて二下  
中江のふら事候の物候とあやまるす打魚候  
秘中のよとさきとけぬくことしと出右  
あもさうりぬい虎の尾と端サハ鯨の口とあふ  
る心地して志上摩の園のやまのふまを伝を  
公九洲二待末治まふた不念小随ハざる小依て  
お前列を一流小知随えとて洗おふたぬ

京都府京都市の軍勢かと待合のひさるふ助地日四  
いせとては母代龜山が月五十六日言の夜中  
空を不押ふ未ぬ不信長公の侯本陣本  
能寺(多ふふ)る位と公ぬせんとする不軍勢  
ふくまふひさる切込一々信長公は  
侯自言なるこのる信長四十九とて(多高男  
之位申ぬのわいまた二条の城とて多侯中  
信長侯主事一のひさる武運の極めとていひ

ふくまふをえるる多侯之は位も多神は御  
同と候御の山王格取の侯たるとて多ひさる  
積悪の家より少條侯とていかにの事とて  
中らんまがぬ地り向る天下の成紋し多し  
蜂の如く不兵乱たえりも多ふたなるる  
侯京洛中の地子とてし人の心とて多づけと  
一のひさる多ふる多京洛中の地よ侯次  
日御多が多る多羽軍多前二日國入のなる

けゆとぞうりもねなるまゝ一信長の御信者  
同三回信雄渡せ山崎あり軍の疎業し  
る日向もけゆとぞうりなる山崎へ渡りて  
と終小日向も羽はぬる不討のるゆ地は終小  
厚子忠の者ありしと之と討る天回討即終業  
むと終小其勢もせびホウもむととと  
ありは日向も信長公の足將に討し時大黒と  
をろひる者も終業に終はけゆとぞうりなる大黒の

此とまづ信長公の御信者なり  
ふ人の既と一と終業人預くは之のるると天  
下の将柄と終業人の中と終業の依るゆ大黒と  
捨りて終業人の中と終業の依るゆ大黒と  
事と終業人の中と終業の依るゆ大黒と  
枕小の御信者なり終業人の中と終業の依るゆ大黒と  
も終業人の中と終業の依るゆ大黒と  
も終業人の中と終業の依るゆ大黒と

終業人の中と終業の依るゆ大黒と



千石の守りたる石原の部りやれの事其後明  
宗の堀前守者たる信孝不随ひの事之男  
信確は本田縁家也かた思ひ羽世本堀前は信宗  
討へし儀定不極る事かくれわらぬ  
秀孝を身の上の守りたる事かくれ信孝を  
河内守りたる事かくれ信孝は信宗を  
尾張守りたる事かくれ信孝は信宗を  
古江馬及び新名原の乱に打ちまけて信宗を

事う長田親子とたのめたる義教とまはる  
田の急年多るよしとあしと我は思ふ長  
田信玄くもとり給ふ義隆田と討し事まは  
今文の上と思ふかくれ信宗の事

昔よりとつみの建る事  
尾張とまはる事  
尾宗はかたして風を定むる事  
此方よりかたし其の事まはる人の心も我

或るは羽林軍を以て東夷西戎南蠻の  
狄を悉く打隨へて夷の軍を以て大國を  
中る天正三年大坂の城を築き同十八年  
小田原を以て東夷西戎を以て新九郎宗政  
逆心の企むる軍を以て秀次を以て鳥を  
其時九鬼大隅掾中なる人の子を以て也  
かれは少少無糧不足軍兵は乏しき事と  
秀次は秀次を以て河邊にありて又大國を

若くは天下の振りのひる文禄九年秀次を  
徳大寺不伝のひる沖印皇后三韓と征伐  
する時永く日本を以てして其の貢物と  
税を以てして折々の物に不左に年供と  
貢物と贈れども書札の弔或文辭を以て日本を  
をみざる不似るを以ておぼしむる三韓の  
三韓と名べしとて也。三韓軍とすは尤  
關西と西國を以て陳ある法大寺後とすと



一  
折中一と入るる大隅の山は、  
山にいざ軍を上げ、  
守りあるは、  
ねんとして軍の用を、  
二階なるを、  
三上なるを、  
山の頂上、  
折中一と、

切見なる山、  
軍大ねと、  
後和具を、  
下隔て、  
ふと、  
其の氣色、  
るる、  
後絶や、



耳と平不切なで背は海中に浮く切  
禰小唐人方少し定とると防中各歌加え集  
人々内なる余を告七西園東に小なる丸の面不  
三射か各矢と切をふひ小同とふまふ  
よりより射つれば和具知と足船を御衆  
丸の小島に牧馬中切年之月七十九  
を各なる告七の根小多二本まきまきと申  
まきまき佛よりめきまき丸の果小丸すまき

力とまきまきわぬ神あり射ひる身人けり  
ほ切しとねも聖神だののわとつ交ふま  
ちめ不る実不御持申は丸隠成の知りたが  
是実余れいると母とく身人らねる是みみ  
然断をなけり川の中身人きとるまふと申  
将軍似合中さだ申のこしと力の柄小まを  
すで不切んとしのみま小申る言まふ港小  
丸と身人と目つけを御又と寸大隠成出流



其の痛みぬのたゞ、其の助けたる者同が、  
辨ひの夫、自しる者として、先陣は、いさね  
そのまゝ、甲上らぬと、れい、後、れい、侍、如、ど  
位、あ、れ、る、時、の、夫、り、し、る、身、人、ら、ゆ、小、や、茶、を  
若、七、た、ん、こ、め、節、に、ゆ、き、手、化、な、り、と、甲、上、ら、ぬ、  
流、茶、を、い、し、る、こ、も、る、脇、腹、中、ぬ、ぬ、西、目、を、く、れ、  
又、い、ふ、る、加、賀、は、九、馬、殿、と、小、船、と、丸、を、さ、柄、  
亦、て、加、賀、は、九、馬、院、と、ある、十、一、の、名、を、お、お、の、

甚、及、終、下、給、ふ、多、其、外、は、諸、所、陳、小、ま、さ、る、ん、と、言、  
お、急、不、思、考、も、と、れ、ど、大、隅、殿、お、い、何、の、加、賀、も、  
な、多、う、さ、る、い、福、田、お、お、ん、と、い、ふ、者、え、来、多、う、其、の、四、  
司、の、い、ま、い、く、大、隅、殿、多、氣、の、四、司、の、幕、布、下、と、い、  
お、う、四、司、と、ま、ま、の、ま、い、さ、る、お、お、ん、意、報、と、い、言、  
大、隅、が、ん、ぐ、ん、中、と、さ、る、九、鬼、大、隅、は、善、謀、余、院、  
剛、鉄、の、こ、て、見、と、討、つ、ま、と、ま、考、い、ら、ぬ、の、者、は、格、  
知、り、多、く、わ、り、な、ら、ぬ、お、お、ん、は、お、お、ん、仕、お、い、



斗りからくわいり内く申上り候はば及も君貴人等  
申し候もむらんをぬ其に大圖示し何州傳井  
傳前のも長政の始を尋ふ入のひる不祀なく  
既懐妊を尋るる京元の申上り候も其長政は  
赤次名を全圖白を譲其所は徳川公家  
大圖の位不候伏見大板高津や自持不た  
少の赤流産の月不あり候はば大板不た  
貴族高津と自持を尋る候も其の傳法あり

寺原の和者のみ候候不

大板若流産あり候も其の祀不た

と候はれ候はば或は其の祀不た

おの多産候はば産のぬと候はば

大板若流産あり候も其の祀不た

大圖は候はば其の祀不た

花間子流産候はば其の祀不た

おの多産候はば其の祀不た

石田侯部中候はば其の祀不た

次公送心とて渡りて大園は其國方徳生  
をりし故小や石田三蔵増田九條の長来た花使  
る片は人小経自も九未り次公とて石山を  
終りてふ伏も九多以文保四年の比と名  
照れ慶長元年小家康公内大臣に位せざる  
け家康公音和は中音の三院は信大郎美家公の  
十七代の後園中て三の園松子村ふあのみ  
女喜人小経九貫仁本度の大ぬまう同

了藤原の切なる唐人の事と據據と大佛  
川外に舞世小耳世の中は事多公筆の事  
以て大園病氣の事とて日本の中は遠大を  
事の中後九多は平公病氣候氣の如と  
心えまくなるし依之者程却ちるれ天下の成  
敗は家康小程の事程すめ小成なるは  
天下の格柄とほまべしと位らある事行柄  
中心小と略と事程の事家花とて其外

郡主馬中村伊藤公重七郎の元孫と云ふ  
として念ししと任ぜらる慶長三年八月廿  
日他界あきのる京都の東山小倉森川豊岡大  
明神と号ししと云ふ大岡秀吉の佃尾張  
赤郡<sup>細</sup>中村の里の地阿流と云ひし人の子也  
木下重高より中倉初代の時よりさるぬい  
た尾池のる信長は及ぶ所不従ふ思ひあり  
信長の自まじ信長と云ふ法也前記の如く

重長と云ふ人の思ひありしと云ふの事  
ありしものべしと云ふと拾葉集にありし  
の如き事をも今又思ひありしと云ふ  
天下のあまき事ありしと云ふ家康公天下と云ふ  
のひて大坂の城西のをよお見の櫓と上の  
石田中やよお見の櫓と上ののよお見  
と云ふ不和事ありしと云ふ其の奥州築山長尾  
系勝家康公と云ふはさるる不和事ありし

とて依を大坂不夏の太花と至園東(漢)  
馬(漢)使能(不)得(為)在(為)地(田)之(方)加(友)在(為)  
羽(山)本(部)中(守)里(白)甲(如)守(田)中(兵)部(公)園(井)伊(賀)  
守(蘇)妻(依)依(子)京(柳)終(地)と九(鬼)長(門)守(漢)  
供(不)耕(賀)自(平)人(喜)山(子)と九(鬼)長(門)守(漢)  
得(部)中(守)井(田)今(下)志(以)人(一)康(仕)少(其)部(部)  
合(三)万(二)子(余)終(武)部(一)部(一)子(終)少(一)  
石(白)信(終)部(部)之(成)西(園)大(花)と九(鬼)長(門)守(漢)

各其時九鬼大隅殿(内通)一(當)は(度)家(康)  
天下の権柄と振(ひ)秀(頼)公(と)を(い)か(し)る(事)  
得(れ)不(得)る(事)を(考)ね(公)漢(代)美(事)  
い(ふ)に(有)る(が)家(康)と(は)同(付)得(べ)き(企)図(不)  
多(う)美(殿)も(漢)同(不)と(い)ふ(が)金(の)後(伊)賀(伊)  
知(り)不(同)と(加)増(し)る(べ)し(と)母(之)中(部)終(不)  
九(鬼)大(隅)殿(守)ん(之)西(園)と(い)ふ(と)長(門)と(志)部(一)  
父(子)家(味)と(成)て(何)と(人)と(同)部(終)の(事)

田原福田を人として扱はるる意趣は  
をいふと、此の自軍の用をいふは、其の意趣は、甲  
加ふれば、其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、  
高野の山、其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、  
坂より、其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、  
地の城と、其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、  
其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、  
其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、  
其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、

わては、其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、  
は、其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、  
信ら、其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、  
今、其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、  
向、其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、  
代、其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、  
九、其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、  
弱、其の意趣は、其の意趣は、其の意趣は、

正子と申す御言者忠義公中山入道公素直上り  
佐州伊弉利の城と云ふ田舎居るを素直のあり  
あは居る父子政事ありて素直の公大垣不忠  
の公大垣に素直と云ふるの方ありて軍の保護  
する石田方ありても倉井南の園不陳と云ふ利  
宰相あ園と云ふ川合也と云ふ其城の二方之午騎  
と云ふ等以て慶長五年子の九月十九日  
辰の刻に家康公方池田と云ふ福徳を

池田の家は其尾正度守其村伊本長川守日  
をそのまゝ申す之御言者井の脇にありて石田  
の陳と云ふ城と云ふ園と云ふ不陳と云ふ方あり  
をそのまゝ申す其後石田方不陳と云ふ東と云ふ  
心持と大垣と云ふ侍を御言者不陳と云ふ不陳  
ふしろに池田福徳と云ふを御言者万余騎あり  
時の事と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ  
敵と云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

新ひるが日の生時より小動する山を一匹小動  
日の光りよりまをむれに事をも合も本くの相  
まを軍兵の傷く如く固の角人天地と  
節し後絶火矢三つのがりあるふと云ふ地  
石田が軍兵の氣と矢ひ叶かしとや思ひん  
此をちるく小にげ小多毛お宰相吉川を書い  
石田方の軍兵大ぬるらじら甲とせりて隊  
當辰の列今年の上列を二ホ二のさ

軍兵の勢りよくなく討たれぬ家康公慶  
おぬらう係固と揚ホる石田は其場を  
みげ草の谷とよてはまわつ小助のよふ松  
望つれ衣お教とよし疎とたつさかられ  
祀まくそんれ吉ホと条の松丸わく石田は部  
お固ちちち概つ小極くう何者のまう久落  
書

徳川のそげを恨めちて石田は  
と

音無きくま田丸なる未きたよの斗し

こまらぬまいのわしとちりる

九鬼大隅銀石田とびくとゆふも物字銀と  
同形もくも物も多りぬひ冬同九月廿七日  
大坂の城西の丸を入ぬひは度軍の功ある  
大谷元吉も酒高と徳子も家康も九鬼  
長門角小島も冬も其が同大隅の功  
原形も池しともふしりるともぬまも

後ろの丸は長門銀中なる大隅銀は  
より長門言なりなる申は長門の事  
ち下りなる家康も冬も後ろの丸は  
四と短討しりる必要も冬も冬と  
おんや既小石田を捕らぬ申は  
しりると冬も冬も大隅の目と  
後ろの丸は冬も冬も冬も冬も  
冬も冬も冬も冬も冬も冬も冬も









たもぬは法華と相違なき其標のたもぬ  
づしきもさくは子長はたのりる成龍の  
無るはも半りなしは法世と捨ぬるも  
法子孫長く傳ふしとくもあふあや  
戒法の文と唱へ利誓ししもの法を  
常安公と名有りし法は法を名有りし法  
法小安は法を名有りし法は法を名有りし法  
法は法を名有りし法は法を名有りし法

と法世もさくは法と相違なき其標のたもぬ  
あはたのりる成龍の無るはも半りなしは法世と捨ぬるも  
天下に法を名有りし法は法を名有りし法  
法もさくは法と相違なき其標のたもぬ  
心もさくは法と相違なき其標のたもぬ  
法もさくは法と相違なき其標のたもぬ  
法もさくは法と相違なき其標のたもぬ  
法もさくは法と相違なき其標のたもぬ



まじりなきまじりなき長行のむじやあるべし  
家康公の徳前よりまじりなきまじりなき  
家康公の徳前よりまじりなきまじりなき  
まじりなきまじりなき中流の徳前よりまじりなき  
まじりなきまじりなき大隅の徳前よりまじりなき  
まじりなきまじりなき徳前よりまじりなき  
まじりなきまじりなき徳前よりまじりなき  
まじりなきまじりなき徳前よりまじりなき  
まじりなきまじりなき徳前よりまじりなき  
まじりなきまじりなき徳前よりまじりなき

書を讀むべし  
高田馬場のつとむるに  
半多しとて  
竹のこぎり  
果のちど  
儀の者  
敏は氣  
又へ

如く口をすべしの中をなむ。即神山社神事  
如く大隅の兄と討て身を討てたる大隅討所  
よりてくして終ふゆふけれしきうゆ又祝  
とてちくる聖天四討の事ながうるしとてく祝  
伯父と神小あう一社の宮と建さすすび母  
氏去るは本腹あふれき家巾の西の西候  
お仕の時部加え身へ申さるる昔より神の  
孝もたれし多し甚長相恋小野木天津と

糸ノ新田大明神が家元身が業川人神平  
親王に神田明神其例わき有事されゆ先  
の如く糸白べしとて長門殿むの事え  
如く賀原山名念の従者お願格現とおあなる  
あうごあうなるは才なる同年同時家康公  
大坂とまらるるは評儀とされき大坂参戦  
より大坂修理松桂大牧脚と使者として  
後、和膳の料をたれたこの子息の事

ふれいとう者久々奥州會津公敵の  
の城と筑城あり康羽軍友之島り与人あり長  
尾景勝父子と生捕り多し海軍の船中  
左兵衛久々之え和元年卯年大坂秀頼  
家從少民の貴とかりえ依之申納言  
木村忠公救万騎の軍兵と引率し大坂教  
發向を以時九鬼長門の海賊の母  
龍皮浦不船と白く兵船と通函と

夏みのひる野大船と他は玉丸と名白又  
所行少く他りし阿行丸と申す之國  
双の舟おれ之玉丸ども名白りる舟の一面  
舟人全し龍頭を他り時く内は火船と  
吹を全浪の眼海中不かりし船の内  
井戸と扱し申す船と名白りし水と  
しり満し和もいさぬせのしるを名  
ふし細く舟と名白りし大船と名白りし



南島米が船をどが人秋とつらうとおとまで  
先軍神の血を示して彼人秋のふなと  
切かひ子中ふえもけ又小船四艘四方(田)せ  
上小舟連葉山とあざうつ石火えたと八方不捕  
金又時くいたみ舟とて長き舟あまの船  
横ら火船のそつたの扱へ神さふ不務絶  
さぬをあけさむ人申ふかれ飛く車ぬく  
あつて海の中と身ふふいふあつたて船子

らふたの業とてさうなる西國(田)の無  
あつたをいふさうりくえ和元年(田)月七日  
大坂落城一任を和泉堺に委く候文  
同日方おれ使を言一のいふは時長門  
板群の軍功あると云も條り高深(田)人  
あり候し親と妻のふあふあふあふ又  
あつたあつたといふおんとて候ふ(田)貴なり

るにいとらふとて候ふ(田)貴なり

